

資料

共通感染症発生状況等調査事業（2021 年度-2022 年度調査分）
－ コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 －

カール由起・江藤良樹・片宗千春・上田紗織・重村洋明・芦塚由紀

福岡県内の動物病院 8 施設に来院した愛玩動物（イヌ）157 頭における、コリネバクテリウム・ウルセランスの保有状況を調査した。分離同定及び PCR による保有状況調査の結果、コリネバクテリウム・ウルセランスはいずれの検体からも分離されず、本調査の保菌率は 0.0 %であった。

[キーワード：人獣共通感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症]

1 はじめに

福岡県では、動物における病原体の保有状況を広くモニタリングすることで、共通感染症のまん延防止に寄与することを目的として、2014 年度から福岡県共通感染症発生状況等調査事業を開始した¹⁾。2021 年度から 2022 年度では、県内の動物病院に来院する愛玩動物（イヌ）に焦点を当て、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症を対象として調査を行ったので報告する。

2 方法

2022 年 2 月から 2022 年 11 月にかけて、福岡県内の動物病院 8 施設に来院した愛玩動物（イヌ）157 頭から咽頭ぬぐい液 157 検体を採取し、コリネバクテリウム・ウルセランスの保有状況を調査した。

コリネバクテリウム・ウルセランスの分離同定は、2019 年度から 2020 年度に実施したネコを対象とした保有状況調査²⁾と同様の方法を用いた。シードスワブ γ 3 号（栄研化学）で採取したイヌの咽頭ぬぐい液を勝川変法荒川培地（自家調整）に塗抹し、37°C で 72 時間、好気培養した。コリネバクテリウム・ウルセランスが疑われる黒色集落を 1 検体あたり最大 8 コロニー釣菌し、羊血液寒天培地（栄研化学）で 37°C、24-48 時間純培養した。純培養した菌体を 5%キレックス TE に懸濁した後、熱抽出法（95°C、10 min）により DNA を調製した。得られた DNA に対して、Seto ら³⁾の phospholipase D (PLD) 遺伝子を標的としたプライマーを用いて PCR 法に

よりコリネバクテリウム・ウルセランスのスクリーニングを行った。

3 結果

釣菌した集落から PLD 遺伝子は検出されず、いずれの検体からもコリネバクテリウム・ウルセランスは分離されなかった（保菌率 0.0%）。

4 文献

- 1) 福岡県：人と動物の共通感染症を知っていますか (<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/hitotodoubutu.html>)
- 2) 大石ら：共通感染症発生状況等調査事業（2019 年度-2020 年度調査分）－ コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 －, 福岡県保健環境研究所年報, 第 48 号, 88-89, 2021
- 3) Y. Seto et al. (2008) Jpn. J. Infect Dis, 61, 116-122